



ふくしまの 縄文・弥生時代

— 只見川流域の遺跡 —

展示解説資料



小和瀬遺跡 縄文土器 浅鉢

福島県文化財センター白河館

2026

目 次



只見川流域の遺跡

塩ノ半在家遺跡（柳津町）	1
荒屋敷遺跡（三島町）	1
小和瀬遺跡（三島町）	2
中西部遺跡（金山町）	2
宮崎遺跡（金山町）	2



只見川流域周辺の遺跡

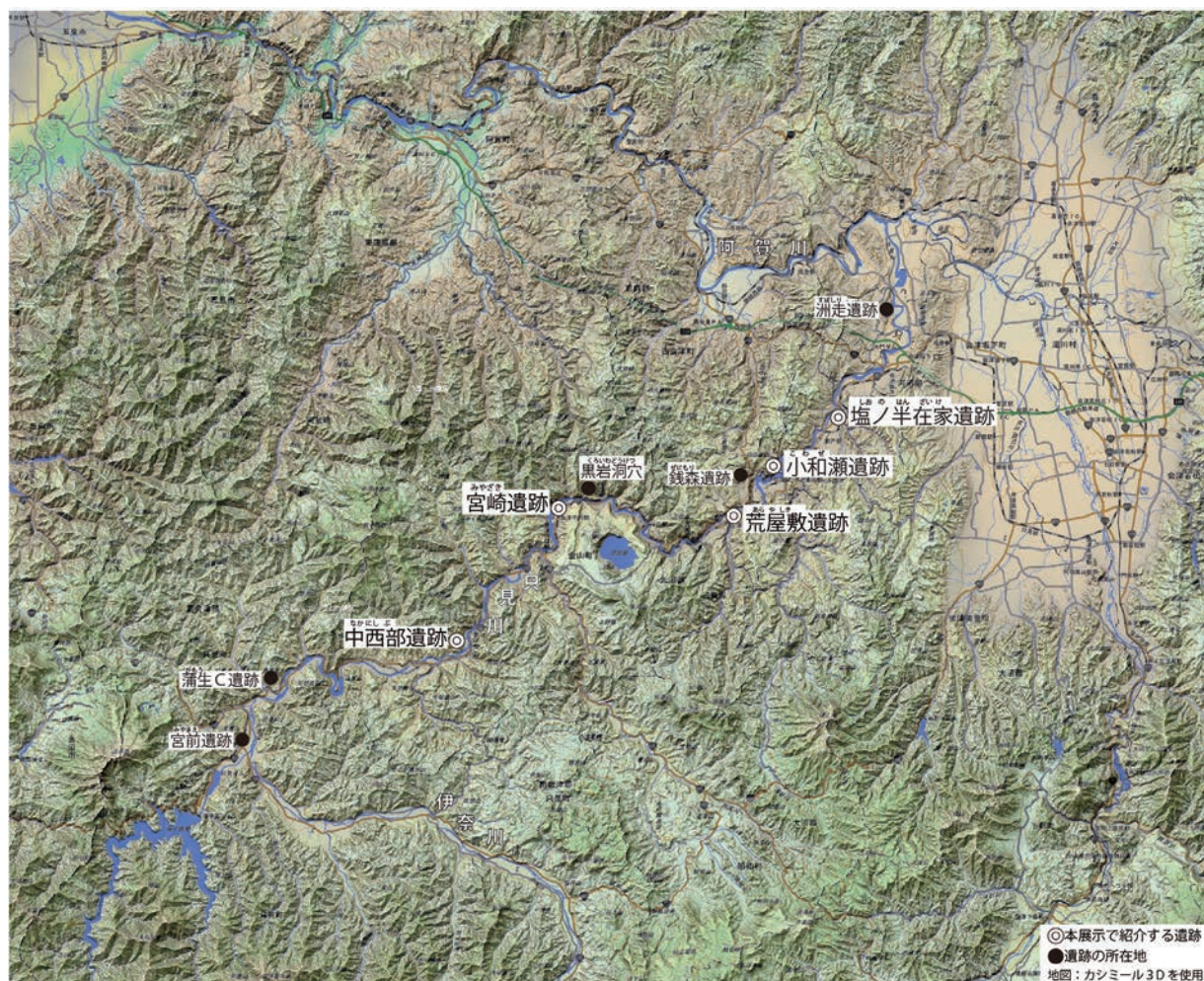
窪田遺跡（只見町）	3
袋原遺跡（会津坂下町）	3

会期

前期展	令和8年1月24日（土）～3月15日（日）
後期展	令和8年4月4日（土）～5月10日（日）

只見川流域の遺跡

(縄文時代晩期～弥生時代中期)



只見川流域の遺跡 (縄文時代晩期～弥生時代中期)

しおのはんざいけ 塩ノ半在家遺跡 (1979年発掘調査)

本遺跡は柳津町大字柳津字塩ノ半在家の河岸段丘面に立地します。総合運動場建設に伴う発掘調査により、縄文時代晩期中葉から弥生時代前期の配石遺構 13 基がみつかりました。遺物は土器・石器・石製品などです。

あらしき 荒屋敷遺跡 (1974・1986・1987年発掘調査) ★前期展のみ

本遺跡は、三島町大字桑原字荒屋敷の河岸段丘面に立地します。1986・1987年の発掘調査は低湿地を対象に実施されたため、通常の状態では残ることがない縄文時代晩期後葉から末葉の木製品・編み組製品・漆塗製品などがみつかりました。さらに、これらの製品を製作したことをうかがわせる未成品や漆を保存していた土器、編み組製品の素材などもみつかりました。その他、弥生時代前期の遠賀川系土器の壺がみつかりました。

なお、出土遺物の一部が、2018年に国の重要文化財に指定されました。

こわぜ 小和瀬遺跡（2019年発掘調査）

本遺跡は三島町大字松原字下小和瀬の河岸段丘面に立地し、縄文時代晩期末葉を主体とする集落跡です。1953年に柳津発電所・ダムが完成したことにより水位が上昇し、本遺跡は水没したとされてきました。その後、只見川築堤工事に伴う試掘・確認調査により、遺跡の範囲が従来の想定よりも広がっていることが分かり、発掘調査が実施されることになりました。

発掘調査では、主な遺構としてたてあなじゅうきょあと竪穴住居跡1軒、ほったてばしらたてものあと掘立柱建物跡2棟、どきまいせつ土器埋設遺構2基、どこう土坑8基、しょうど焼土遺構12箇所、ほうがん遺物包含層などが、主な遺物として土器・石器・土製品・石製品などがみつかりました。

なかにしづ 中西部遺跡（2022年発掘調査）

本遺跡は、かねやま金山町大字大塩字中西部の只見川左岸の河岸段丘上に立地します。

発掘調査では、縄文時代後期初頭から弥生時代終末期、平安時代の集落跡が見つかりました。その内、主体となるのは、縄文時代晩期末葉から弥生時代中期後葉の集落跡で、環状集落が形成されました。

遺構は、たてあなじゅうきょあと竪穴住居跡2軒、へいちじゅうきょあと平地住居跡7軒、ほったてばしらたてものあと掘立柱建物跡50棟、どこう土坑711基、溝跡2条、しゅうせき集石遺構2基、はいせき配石遺構1基、どきまいせつ土器埋設遺構3基、しょうど焼土遺構12箇所、小穴799基などが見つかり、遺物は縄文・弥生土器、石器、石製品などが出土しました。

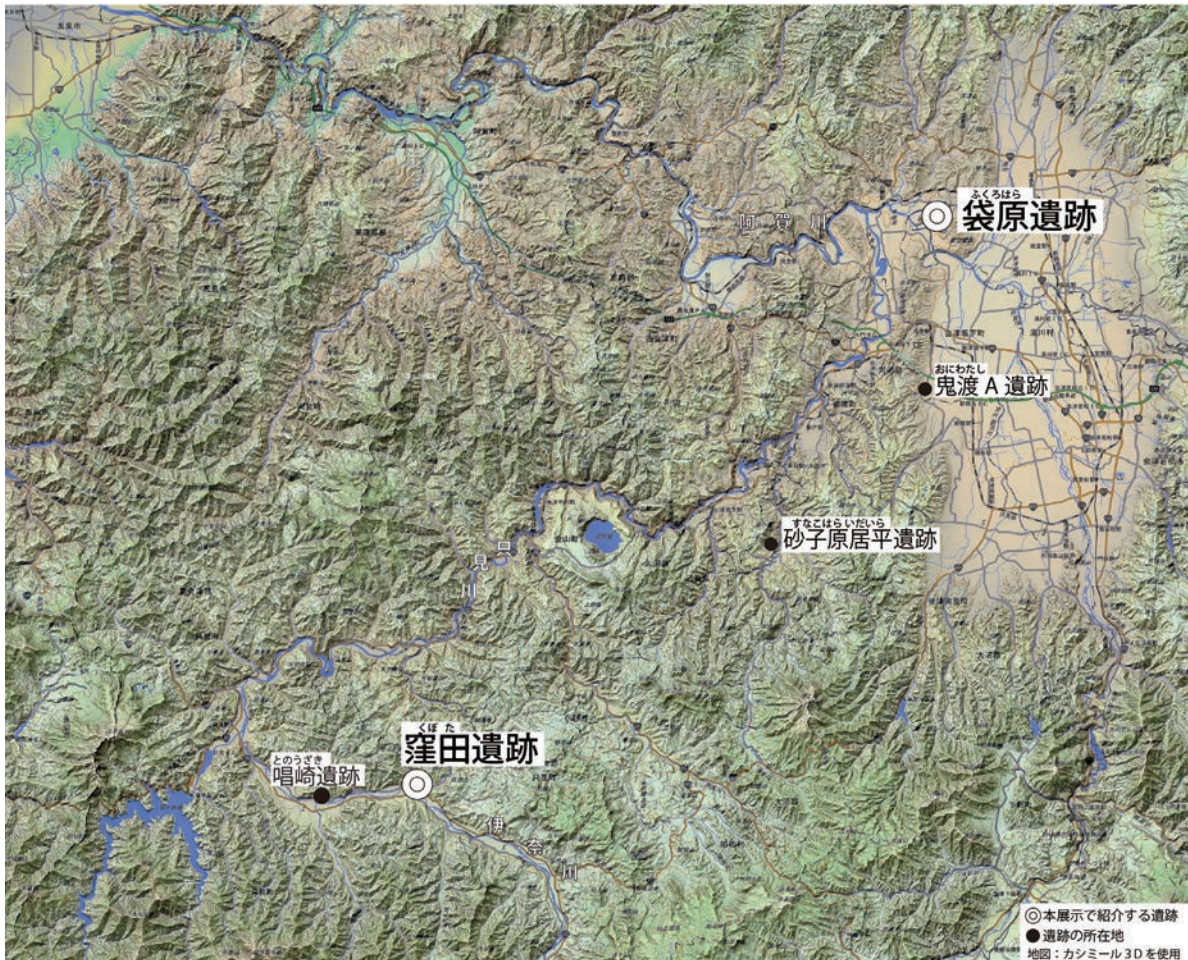
みやざき 宮崎遺跡（1967・1968・1977年発掘調査）

本遺跡は、金山町大字中川字居平の河岸段丘面にあり、宮崎集落の北東部に位置します。

発掘調査は、個人宅を対象に実施され、弥生時代中期前葉から中葉を主体とする再葬墓さいそうぼがみつかっています。

再葬墓とは、一度埋葬した遺体を白骨化した後に取り出して、遺骨を土器に納めて再び埋葬する方法です。本遺跡の再葬墓では、同一の土坑内に複数の土器が入っていました。

只見川流域周辺の遺跡 (縄文時代晩期～弥生時代中期)



只見川流域周辺の遺跡 (縄文時代晩期～弥生時代中期)

窪田遺跡 (1985・1986年発掘調査)

本遺跡は只見町大字大倉字窪田にあり、只見川支流の伊南川沿いの河岸段丘面に立地する縄文時代晩期から弥生時代中期を主体とする集落跡です。発掘調査では、主な遺構はたてあなじゅうきょあと 竪穴住居跡 6 軒、まいせつ 埋設土器 6 基、どこう 土坑 49 基、さいそうぼ 再葬墓 13 基などが、主な遺物は土器・石器・土製品・石製品などがみつかっています。

このうち注目されるのは、弥生時代の竪穴住居跡 2 軒と再葬墓 13 基です。近接した場所に竪穴住居跡と再葬墓があるのは、県内では事例がないので大変貴重です。

発掘調査地点は、現在「ただみ・モノとくらしのミュージアム」の敷地内で保存され、竪穴住居 2 軒が復元されています。

袋原遺跡 (1975年発掘調査) ★前期展のみ

本遺跡は会津坂下町大字長井字袋下・袋中に所在し、阿賀川の旧河道沿いの河岸段丘面に立地します。遺跡の所在確認のため発掘調査が実施され、縄文時代晩期の多くの土器・石器・土製品・石製品などがみつかりました。遺構は確認されませんでした。集落跡とみられます。

